

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	障害者居宅生活支援事業	会計	一般会計	事業No.	98	施策順No.	34-002
		事業種別	政策・重点	予算科目	3-1-3-14-1		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	福祉課		
施策	34 障害者福祉の推進			事業期間	開始	4	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	1 在宅の身体障害児者・知的障害児者・精神障害児者 2 在宅の心身障害児者の介護者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		在宅障害児者概算数(人)		2190	2250	2300	2350	
		在宅の障害児者の介護者概算数(人)		2190	2250	2300	2350	
意図		1 障害が重くても自立した在宅生活を送れるようにする 2 介護者の負担軽減を図る						目標達成度 B
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	
	サービス受給者数	155	158	169	160	161	160	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	各種サービス受給者数の数値目標は達成しているが、障害福祉サービスを利用せず在宅で頑張っている家族への休息等、各種支援制度の見直しが必要と なっている。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	障害児者の自立した在宅生活と介護者の負担軽減のための事業を実施する。 障害者自立支援法に定められたサービスを除いた事業を実施するため、自立支援法の動向を見ながら具体的に実施内容を検討していく。 1 障害者タイムケア事業(介護者レスパイト) 2 布団乾燥事業(障害者の衛生支援) 3 訪問理美容事業(障害者の衛生支援) 4 障害者自立体験事業(障害者の地域移行自立支援)		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 障害者タイムケア事業 2 布団乾燥事業 3 訪問理美容事業 4 障害者自立体験事業	1 実利用者数 2 実利用者数 3 実利用者数 4 実利用者数	1 145人 2 13人 3 3人 4 0人
23年度実施計画	1 障害者タイムケア事業 2 布団乾燥事業 3 訪問理美容事業 4 障害者自立体験事業	1 実利用者数 2 実利用者数 3 実利用者数 4 実利用者数	1 131人 2 10人 3 10人 4 2人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (県)地域福祉総合助成金(1/2)5,169千円
	国庫支出金					
	県支出金		7,238	5,169	6,093	
	起債					
	その他					
一般財源		7,359	5,476	6,212		
計(A)		14,597	10,645	12,305		
	正規職員所要時間		1,000			
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)		3,576			
	トータルコスト A+B		14,221			

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	安心して地域で日常生活が送られる	施策の成果指標又はムトス指標	安心して地域で日常生活が送れる割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	重度の障害者の在宅支援という、介護者にとっての重労働に対して介護負担の軽減が図れた。		
	後期に向けた課題	さらなる介護負担の軽減のため、利用促進が必要。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	対象者全員に対して個別に申請書を事前送付するなど、制度利用の促進を図った。		
	後期に向けた課題	さらなる介護負担の軽減のため、利用促進が必要。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	特になし。		
	後期に向けた課題	特になし。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	介護負担の軽減という見地から、市の制度として個人負担なしで実施してきている。		
	後期に向けた課題	さらなる介護負担の軽減のため、利用促進が必要。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①②介護負担の軽減という目的のために実施してきた。		
	後期に向けた課題	①②さらなる介護負担の軽減のため、利用促進が必要。		
全体を通じて	4年間の振り返り	重度の障害でも在宅生活を可能にするための支援を行い、介護者にとっての重労働に対して介護負担の軽減を図るために実施してきた。申請書の事前配布等、利用しやすい状況を作り出すなど、利用の促進を図った。		
	後期に向けた課題	さらなる介護負担の軽減のため、利用促進が必要。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------